

ハチ博士の ミツバチコラム

4



京都学園大学
バイオ環境学部
坂本文夫教授

セイタカアワダチソウと ミツバチ

今の季節、よく見る花にセイタカアワダチソウがあります。更地になった土地などに密集して咲く、背の高い黄色い花です。外来種で繁殖力が強く、一時は花粉症の原因と考えられ、嫌われものでした。この植物は根から毒性のあるアレロパシー物質を出し、他の植物の成長を邪魔することでも有名です。

しかし、この花は虫媒花なので花粉を飛ばさないから花粉症とは無関係で、近縁のブタクサの方が花粉症の原因であることが判明しました。また、周囲のアレロパシー物質が過剰になると自分たちも繁殖できないことも分かっています。無敵の悪役ではないのです。

この花は他の蜜源植物が咲



き終わる晩秋に咲き始め、長い間、たっぷりと花蜜を提供してくれます。ちょうど、越冬の準備をするニホンミツバチには大事な蜜源植物です。私たちが秋に巣箱から採蜜すると、ミツバチの越冬のために必要な蜜が不足する可能性があります。ありますが、セイタカアワダチソウの花蜜で不足分を補充できます。正直言って、この花の蜜は独特の匂いがあり美味しくありません。しかし、ミツバチの越冬には今や不可欠の蜜源なのです。これまでこの花に偏見を持っていた人は、是非一度近くで眺めてください。意外ときれいな花です。